

◆第14章 素晴らしい身体とスライム乳

またミサを立たせると、あらためてそのプロポーションを鑑賞する。何という挑発的な身体。 細い手足にとんでもない乳房。きゅつと締まった腰は高い位置にあり、長い足が伸びている。

色の白さが、絶対領域をより際立たせている。

ニーソフェチ正雄にとっては、まぶしいほど欲情をそそられる。



『ああ、ミサちゃんいいよお〜!!』

太ももに抱きついて頬ずりする正雄。

美少女の憧れの絶対領域。柔らかく吸い付くような肌触りだ。

たまらず舌を這わせる。

『たまんねえなあ〜!!、ミサちゃんのおともも〜!!』

べろべろ舐め味わいながら、段々上へ上っていく...

太ももを舐めたいなあ!!

もつと奥へ奥へと、下から覗き込むように舌を這わせて舐め回していく……
スカートの中まで顔を潜り込ませ、その絶景に歓喜する。

真っ白い太ももがぴったり合わさり、奥には布に覆われた三角地帯が目の前に迫る。

『くわあゝ、おじさん幸せえゝゝ!!』

白い太ももを狂ったように舐め回し付け根に近づいていく……

そして、ぴったり閉じられた太ももを割り裂くように、
片足を肩に担いで三角地帯の奥を覗き上げる。

『やつー！やああゝゝゝゝ!!』
嫌がって正雄の頭をスカートの上から押さえつけるミサ。
スベスベの両ももに顔を挟まれて凄く気持ちいい!!

見ると、敏感少女の股間はやはりシミができています。

『うわゝゝっ!! ミサちゃんシミ作ってるゝゝ!!』

『やっぱ感じてるじゃん!! やらしいねえゝゝゝ!!』

『いっ、いやゝ!!』

『ちがうゝゝ!!』

『ちがうゝゝ!! あっ!!』

おぢさん！ミサちゃん
感じてるぢやないか？

『かわいいなあ〜!!』

たまらずその部分に顔を埋めていく正雄。

『あっ!!いつ、いや〜!!』

『だめ〜!!だめ〜!!あっ!!』

ビクッ

ペロペロ スー

スーと匂いを嗅ぎながら舌を動かしシミの部分を舐め回す。
かすかににゆるつく舌触りがある。

かわいいなあ
ミサちゃん

か・可愛い〜〜〜〜!!

美少女のシミの匂いを嗅ぎ、舐め回し、もう辛抱たまらん。

はやく中身を味わいたい!!この中にあの美しいオマ●コがあるんだ!!

パンティーを掴み、ずり下ろしていく……

『ミサちゃんのきれいなオマ●コ見せてもらおうね〜〜!!』

かっ
あ
だ

パンティーを下げると、片足を持ち上げ大きく股を開かせる。

立ったままでの恥ずかしい姿に更に羞恥して悶えるミサだが、お構いなく股は広げられる。

『で、出たあ~~~~!! ミサちゃんのお●んこ~~~~!!』

か・可愛い~~~~!!



『いつ、いやあ~~~~!!』

『見ないでください! だめ~~~~!!』

必死で手で隠そうとするミサだが、その手を掴みほどいて凝視する正雄。

ほんのり薄い生えかけの陰毛。

ほとんどパイパンのような状態だから、可愛いクリトリスも割れ目も剥き出しで丸見えだ。

更に大きく股を開かれて、小さな割れ目も口を開けて濡れた秘肉をのぞかせる。

